解　説

電子・電気の基本機能の探究：電気特性応用研究WG委員会を振り返る（その1）

Study on Generic Functions of Electronics and Electricity: Review by the Electrical Properties Application Study Working Group (Part 1)

河田　直樹*
Naoki Kawada

1. はじめに

1995年4月から1997年1月までの約2年間，当時電気通信大学大学院電気通信学研究科　矢野研究室の学生として電気特性応用研究WG委員会に参加し，自身の修士論文の研究としてはもちろん，それ以外のことも含めてさまざまなことを学び，今に至っている。来年で30年になるこの機会に電気特性応用研究WG委員会を振り返り，基本機能についてどのような研究を行ったかを今号から数回に分けて記したい。

なお，詳細や具体的な事例，データについては，日本規格協会発行の「品質工学応用講座　電子・電気の技術開発」（以下，『電子電気の技術開発』とする）を参照されたい。

2. 電気特性応用研究WG委員会について

この委員会の主催は日本規格協会であり，その最終目的は，前述の『電子電気の技術開発』の発刊であった．後に2000年4月に発行されることを目指して毎月開催されていた。

最初に参加したのは，1995年4月であったが，委員会としては既に23回を数えていたので，遡れば1993年からスタートしていたことになる。月一回の開催で時間は18時～20時と決まっていたものの，週や曜日に規則性はなく，多くの企業の方々がスケジュール調整に苦慮して参加されていたのではないかと思う。

委員長はもちろん田口玄一氏であり，幹事は私の恩師，矢野宏氏であった。また主な委員は，原和彦氏，馬場幾郎氏，そして当時矢野研究室の共同研究先のご担当をされていた金本良重氏や山本雅男氏の他，多くの電気系製造業の方々や，現在学校教育に力を注いでいる青木昭夫氏も参加されていた。また，秦勝一郎氏が毎回丁寧かつ正確な議事録を作成され，この委員会活動の活発化の一翼を担っていた。当然学生は他におらず，まさに「我以外皆我師也」という状況で，多くのことを学ぶ貴重な場となった。

なお青木昭夫氏とは2017年以降，同じ学校教育関係者として顔を合わせることになり，懐かしく思うとともに，学会というつながりのすばらしさを実感している。

3. 電気特性の応用と自身の修士論文の研究の関わりについて

矢野研究室は，大学院電気通信学研究科機械制御工学専攻と電気通信学部機械制御工学科に属していたことからも機械工学が中心にあり，その中でも計測制御系の研究室であったから，電気特性に関する研究はやや異分野となるテーマであったが，評価と

1. 電子回路の新しい評価方法の提案
2. パラメータ設計における利得の再現性の不十分さの克服

* 埼玉工業大学